

編集委員リレー執筆コーナー



黒岩 正信
KUROIWA Masanobu
本誌編集委員

機関誌の編集委員になって早いもので丸4年になりましたアイレック技建の黒岩正信と申します。編集小委員も兼務しておりますので、見学会や下水道展などの取材や技術論文の投稿もさせていただきいろんな人にも巡り合うことができました。ここでは、私の趣味の一つをご紹介しますことにします。

縁あって現在、東村山市に在住で、雨でない休日は自転車で行ける東京の水瓶の多摩湖・狭山湖に隣接する狭山丘陵の雑木林に、デジカメと双眼鏡を抱えて通っております。都立の自然公園である狭山公園、八国山緑地などで、隣接地には「トトロの森トラスト基金で購入された1号～6号用地」なども点在しております。古くからの武蔵野の雑木林が残っていて、大きなグリーンベルトを形成しており、動植物も大切に保全されています。

各種観察会も開催されており、狭山湖に隣接する埼玉県の「みどりの森博物館」の観察会では常連メンバーとして活動しています。春夏秋冬・四季を通して、いろんな植物の動きに対応するかのようになり、いろんな花や昆虫や鳥などが入れ替わって見られます。これらを写真に撮って、インターネット上のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の代表であるmixiにアップして、グループ間で情報交換をして楽しんでいます。年間数千枚の写真を撮りますが、その中から良く撮れたものや初めて出会った虫などをアップしています。初めて出会った虫と言えば、今年の夏、鹿児島に帰省した際に撮影したクロマダラソテツジミについてご紹介しましょう。この蝶は、本来台湾やフィリピンに生息しているらしいのですが、

地球温暖化の影響か奄美諸島などで時々迷蝶として観察されていたものようです。鹿児島市内で観察されたのは初めてで、繁殖している可能性を示唆する写真のためにソテツの食害が心配されています。この事例のように、動植物は環境変化のセンサー的な役割もします。

埼玉県の上記観察会の指導者は、里山の動植物に詳しい大学や高校の先生などが揃っていますので、観察会の中でほとんどの情報が得られますが、名前がわからないものは、図鑑やインターネットで調べたりして名前付きの情報にしています。インターネット上にはプロの写真家のサイトもあって、名前探しにも活用していますが、本当に良い時代だと実感しています。観察会の仲間には、虫に詳しい人、蜘蛛に詳しい人、植物に詳しい人などいろんな専門分野の人が混在しているので、見えてくるものも多岐に亘り、オサムシに生えるキノコの種類「冬虫夏草」なども見ることができます。何を見ても決めないでスタートするといろいろなものが見えるという不思議な感覚も身につけて来ました。参加者個々の目でいろいろなものを見つけて楽しむというのが基本で、指導者がそれを解説するというスタイルです。

小さなデジカメ一つと双眼鏡があれば、ほとんどお金のかからない趣味として、皆さんもお近くの公園や雑木林、川原、植物園などで始めてみてはどうでしょうか。四季を通して、身近な所に多くの生き物が住んでいることを発見できますよ。

